

鹿児島県立埋蔵文化財センター  
Prefectural Excavated Cultural Assets Center



# 埋文だより

創刊号

Archaeological News

平成4年12月25日発行



テープカット

## 埋蔵文化財センターがオープン

県立埋蔵文化財センターの落成・開所記念式典が平成4年5月8日、河原純之文化庁主任文化財調査官をはじめ多数の来賓参列のもと、盛大に挙行されました。式典は、高崎能弘県教育委員長の式辞に始まり、土屋佳照県知事のあい

さつ、県建築課長の工事経過報告、工事関係者に対する感謝状贈呈が行われた後、文化庁長官、県議会議長、始良町長から祝辞が述べられました。続いて、テープカットが行われ、出席者は職員のご案内で新装の施設を観覧しました。



## 「親しまれる施設に」

—開所式典知事あいさつ—

鹿児島県知事

土屋 佳照

県立埋蔵文化財センターの落成開所式に当たり、一言ごあいさつを申し上げます。

今日、わが国では、国際化の激しい進展や高齢化・情報化の進行、あるいは自由時間の増大などを背景に、人々の生活や価値観が大きく変化し、物質的な豊かさよりも、精神的、文化的な豊かさにとたいする欲求が高まっております。

こうした社会状況をふまえ、県としましても先に策定した総合基本計画の中で、県民が芸術や文化に親しみ、豊かな生活を送ることのできる文化の香り高い地域社会の形成をめざすことを基本理念に掲げ、これを達成するための各種文化施設の整備充実に努めております。

本日、ここに落成開所しました埋蔵文化財センターでは、埋蔵文化財の調査、整理、研究、収蔵のほか、出土品の公開・展示や各種研修会等を行います。これらを通じて、県民が生涯を通じて学習する場を提供し、本県の地域文化の振興に大きく寄与するものと確信しております。

また、県勢の浮揚発展には、こうした地域文化の振興とともに、これを支える地域産業の振興も不可欠であります。

即ち、工業団地の建設や農業基盤整備事業の推進、南九州西回り自動車道、九州新幹線鹿児島

ルート整備促進等により、人、物、情報の交流を活発にすることが、県政の重要な課題となっております。

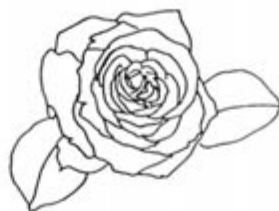
こうした交通や流通の基盤整備、産業基盤の強化など地域振興策の推進と、先人の残した貴重な文化遺産である埋蔵文化財の保護との調和を図るうえで、当センターの役割は極めて重要なものがあります。今後、県民の皆様は御活用いただけるよう大きな期待を寄せております。

当センターは、7億6千万円の建設費と10か月の工期で完成しましたが、建物は伝統的な風格を備え、周囲の環境にもマッチしたスマートなものとなっております。

今後は、広く県民の皆様は愛され、親しまれ、気軽に利用していただけるセンターとなるよう願ってやみません。

終わりに、当センターの建設に御尽力いただいた文化庁をはじめ、工事関係者並びに地元始良町御当局の皆様に対し、衷心より感謝申し上げます。

今後とも、当センターの発展のために、皆様方の一層の力添えをたまわりますようお願い申し上げます。ごあいさつといたします。





## 「古代とのふれあい、心豊かに」

—落成・開所を祝して—

鹿児島県立埋蔵文化財センター 所長 大久保 忠 昭

県立埋蔵文化財センターは、平成4年4月1日、始良町平松に開所し、以来、県内外の多くの方々に御利用いただき、さわやかな文化の風が吹きわたっています。

ここで、当センターの施設や事業等を紹介し、開所にあたり一言ごあいさつを申し上げます。

県民の大きな期待を受けて設立された当センターの落成・開所式典は、5月8日、文化庁、県知事、県議会、県教育委員会、地元関係者、文化財関係者、学校関係者等約130人が出席して盛大に挙行されました。式典では、土屋佳照県知事のあいさつの後、テープカットでオープンを祝い、広く県民に開かれた文化施設としての第一歩を踏み出しました。

当センターは、本県教育行政の基本目標である「あしたをひらく心豊かな人づくり・文化づくり」の新しい拠点として、埋蔵文化財の調査整理、研究、収蔵等を行うとともに、公開、展示、公開講座等の開催により、文化財愛護思想の普及・啓発を図ったり、市町村の埋蔵文化財担当職員等の研修を行うことにより、埋蔵文化財に対する県民の正しい理解と認識を一層高め、郷土愛を培うという役割を担っています。

施設・設備は、全国に誇りうるものとして整備されており、敷地5,816㎡、建物は鉄筋コンクリート2階建て、延面積2,640㎡です。1階に、学習展示室、収蔵室、出土品整理復元室、精密分析室、2階に研修室、特別収蔵室、研究室などがあります。

施設や事業等の特色としては、広いスペースが確保されている収蔵室、遺物や火山灰土壌などの科学分析を行う走査型電子顕微鏡やX線分析装置、木製品や鉄製品の科学的保存処理機など最先端の研究機器の設置等のハード面のほか、最新の発掘調査の成果を速報的に提示する速報展示、市町村の職員等を対象とした埋蔵文化財

専門研修講座の開催等があります。

開所から現在（11月末）までの当センターの利用・見学者は、約6,000人です。見学者は、県内各地で発掘された出土品や実物の土層をはぎとった展示等を目のあたりにして、土地に刻まれた古代の人々の様々な生き方や自然とのかかわり等についての、古代からのメッセージに感動し、埋蔵文化財や郷土の歴史への理解をさらに深めていただいています。

一方、県内各地の発掘調査現場においても、地域の小・中学生、高校生をはじめ、住民の方々が遺跡見学や現地説明会に積極的に参加されて、先人との語らい、文化伝承の場として活用されています。

近年、心の豊かさや精神的充実感を求めることを生きがいとする傾向が強まってきている中、埋蔵文化財センターの内外において、このような人々に接することができて嬉しく思います。

私たちの郷土鹿児島には、先人の生活が刻まれた遺跡が数多く残されています。これらは県民共通の文化遺産として保存・活用し、後世に引き継いでいくことが大切です。

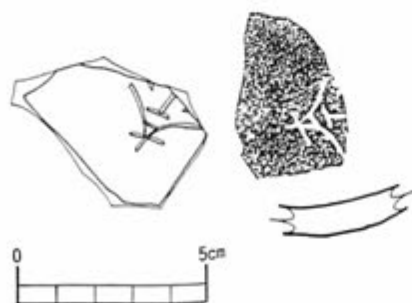
今回、埋蔵文化財センター開所を機に、ここに所報「埋文だより」を発行することになりました。今後、この所報が私たちの郷土鹿児島の土地に刻まれた歴史、埋蔵文化財についての情報提供の役割を果たすとともに、先人との語らいのページとなり、埋蔵文化財愛護の思想がますます普及することを願っています。

終わりに、開所以来今日まで、県民各位、関係者の温かい御支援、御協力により、発掘調査や文化財愛護思想の普及・啓発の諸事業を、円滑に進めることができましたことに、厚くお礼を申し上げますとともに、今後とも、一層の御指導、御協力を賜りますようお願い申し上げます、ごあいさつといたします。

## 埋蔵文化財センター開所までの歩み

### 〈沿革〉

昭和48年	仮収蔵庫の設置
昭和50年	保養院隣接地に鹿児島県埋蔵文化財収蔵庫設置
昭和63年	埋蔵文化財の収蔵用仮設プレハブ増設
平成元年	埋蔵文化財センター建設予定地の地質調査・基本設計・実施設計
平成2年8月8日	埋蔵文化財センターの建設工事着工
平成3年6月20日	埋蔵文化財センターの施設工事竣工
平成3年9月30日	収蔵庫から埋蔵文化財センターへの移転完了
平成3年12月10日	収蔵庫の解体撤去
平成4年3月27日	鹿児島県立埋蔵文化財センターの設置条例公布
平成4年4月1日	鹿児島県立埋蔵文化財センターの発足
平成4年4月1日	鹿児島県立埋蔵文化財センターの設置条例の施行
平成4年4月1日	鹿児島県立埋蔵文化財センター開所
平成4年5月8日	鹿児島県立埋蔵文化財センター開所記念式典



### 埋蔵文化財センター敷地内の「平松原遺跡」の発掘調査

埋蔵文化財センター建設敷地内に遺物の包蔵地が確認されたため、埋蔵文化財センター建設に先だって埋蔵文化財の発掘調査が実施されました。

発掘調査は、平成2年6月5日から同年7月31日まで実施されました。発掘調査の結果、縄文時代から中世～近世までの長い生活の変遷の跡が判明しました。縄文時代・弥生時代の遺物は十数点の出土であり、生活の中心的な場所とは考えられませんが、古墳時代・平安時代・中世～近世は遺構も検出されて当時の生活の一端を窺い知ることができました。

古墳時代は、5m×4m程度の規模の4軒の竪穴住居跡が検出されました。平安時代は、9世紀前半頃のV字形の溝が検出され、「奈」と刻まれた刻書土器や墨書土器も発見されています。中世～近世は、洪武通寶などの渡来銭や古寛永通寶を埋納した墓も検出されました。



平松原遺跡 1号住居跡

## 平成4年度 埋蔵文化財センターの事業

### 1 分布調査

- ・農業基盤整備事業関係（県内全域，通年）
- ・北薩・伊佐地域（平成3～7）
- ・サン・オーシャンリゾート地域（平成4～6）
- ・諸開発関係（県内全域，通年）

### 2 発掘調査等

- ・南九州西回り自動車道関係（2遺跡）
- ・国道220号鹿屋バイパス関係（3遺跡）
- ・国分上野原テクノパーク関係（1遺跡）
- ・県道改良工事関係（3遺跡）
- ・県営農業基盤整備事業関係（30遺跡）
- ・国営農地開発関係（9遺跡）
- ・その他市町村関係（8遺跡）
- ・重要遺跡確認調査（2遺跡）

### 3 報告書作成

- ・九日田遺跡，中里遺跡（県営農業基盤関係）
- ・保養院遺跡（県立保養院建設関係）

### 4 資料管理（収蔵）

- ・調査研究が終了した出土遺物を遺跡ごとに分類収納し，研究・普及に活用。現在，パンケースで11,800箱余収蔵。

### 5 展示

- ・常設展示 ①埋蔵文化財の保護のしくみやセンターの機能。②火山灰と遺跡の関連を示す実物の土層。③県内の各時代の遺跡の分布地図。④旧石器時代から近世までの出土遺物600余点を展示。
- ・速報展示 ①最新の発掘調査成果を速報的に300余点展示。

### 6 研修・普及

#### ①埋蔵文化財行政基礎講座

- ・文化財保護と埋蔵文化財保護行政の基礎的知識の修得を目的に年2回（7・10月）実施。

内容 ・埋蔵文化財保護行政の現状

- ・埋蔵文化財の取扱いと演習

受講者 ・市町村埋蔵文化財担当者及び一般行政職員（県・市町村）

#### ②技術研修講座

- ・市町村埋蔵文化財専門職員の資質の向上を目的に年2回（11・3月）実施。

内容 ・緊急発掘調査の現状と課題

- ・火山灰と考古学

- ・鉄器保存処理

受講者 ・市町村埋蔵文化財専門職員

#### ③長期研修講座

- ・新たに専門職員をめざす市町村職員の養成を目的に6か月（8月～1月）実施。

内容 ・講義（遺跡・遺物に関する基礎的知識）

- ・実習（発掘調査方法，報告書作成等）

受講者 ・7名（大口市，吉松町，栗野町，蒲生町，東市来町，宮之城町，吾平町）

#### ④開所記念講演会

- ・第1回（7月）講演会

- ・旧石器文化における南九州の特色

- ・縄文文化における南九州の特色

- ・第2回（8月）講演会

- ・道具と人間

- ・古墳文化における南九州の特色

- ・第3回（9月）シンポジウム

- ・考古学から見た南九州の古代文化

（①～④は，文化庁，奈良国立文化財研究所など，県内外の著名な考古学者，及び埋蔵文化財センター職員が講師）

#### ⑤埋蔵文化財体験学習「古代とのふれあい」

- ・1泊2日（7月）で，原始体験，発掘体験，イメージ画の作成等を親子で体験学習し，古代とふれあう事業。

#### ⑥刊行物

- ・「埋文だより」，「年報」，「紀要」の刊行。

## 開所記念講演から (その1)

平成4年7月4日

### 旧石器文化における南九州の特色

文化庁文化財調査官 岡村道雄先生

岡村先生は文化庁の調査官として、各地で発見される新たな遺跡・遺物について専門的な指導や助言をされています。さらに、近年「日本旧石器時代史」を発刊され、多くの研究者の注目を集めています。

講演の主題は、旧石器時代の南九州の特色を明らかにすることで、そのため、日本列島で展開した石器文化と比較・検証していただきました。

南九州を含め、九州での3万年以前の前期旧石器文化は明らかにされていないが、出水市の上場遺跡はこれに近づく可能性が高いと評価された。

後期旧石器時代になると遺跡も増加している。このことは、気候の温暖化にともない可食物が拡大し、さらに、技術の発達が行われたことが原因であろうと解析された。

中でも注目されることに、縄文時代の起源・台頭は南九州無しでは語れない状況にあると強調された。これは、近年同時代の良好な遺跡が南九州で相次いで発見されていることによるもので、縄文社会を育てた新たな自然環境が日本列島に先駆けて南九州に成立した可能性が指摘できること。そして、わが南九州が、それらに適応した文化の成立の発信基地となった可能性が高いと提言された。



### 縄文文化における南九州の特色

名古屋大学教授 渡辺 誠先生

渡辺先生は、全国で発掘された植物遺体から古代の生活文化の復元にあたりされており、最近では「縄文時代の植物食」などを著しておられます。そこで今回、縄文時代の食生活を中心にして「縄文文化における南九州の特色」と題して講演をしていただきました。

特に縄文人が食用の対象としたドングリの日本最古のものは志布志町東黒土田遺跡から出土したもので、約11,300年前のものと考えられる。ドングリを食用とするためには煮沸してアク抜きを必要とするものもあり、その過程で器（土器）が必要になってくる。そのため煮沸用として縦に長い深鉢形の土器が発達したのではないかと先生特有の考えが示された。

次に縄文時代の編み物については末吉町宮之迫遺跡の土器の底部に残る編み物の痕跡や奄美大島を中心に発見される土器の文様などから復元が可能とのこと。なぜ、縄文時代晩期の組織痕土器が限定された地域だけに発達したのか明らかでないが、少なくとも食生活と深い関わりがあることは確かであるとのことでした。

また、貝塚で発見される釣針や漁具等のあり方から推察すると、ある地域だけで発達した技術としてとらえることは困難で、汎日本さらには東アジア文化圏の中で考察すべきだと提言された。





## 発掘調査紹介

# 前原遺跡

前原遺跡は、日置郡松元町福山の標高約180mの舌状台地上にある旧石器～縄文時代の遺跡です。南九州西回り自動車道建設に伴う調査で平成3年10月から発掘調査を行っています。

今までに出土遺物は、縄文時代早期を中心に約16,000点あります。遺構も数多く検出されていて、住居跡1基、土坑100基、集石15か所、石器製作跡4か所が確認されていますが、住居跡・土坑はまだ増えそうです。土坑の用途として、動物を捕獲するための陥し穴や木の実等を貯蔵する穴などが考えられます。また、石鏃を作った場所も見つかりました。

土器には、縄文時代早期の貝殻で文様をつけた前平式・吉田式・石坂式土器や押型文・平椀式土器、晩期の組織痕文土器（網目・蓆目）・黒色研磨土器が出土しています。石器は、石斧・石鏃・磨石・石匙・石槍・砥石・石皿等多くの石器が見つかりました。また、早期では珍し



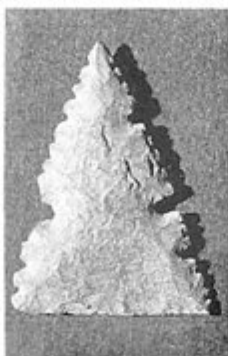
い磨いた石鏃・石槍が出土しています。石材は、黒曜石・頁岩・砂岩等を利用していますが、黒曜石には長崎県や大分県で産出するものもあり、広範囲に交流があったと考えられています。

その他、旧石器時代の黒曜石の剥片が薩摩火山灰（約11,000年前）の下から確認されています。このことから前原遺跡では、旧石器時代から縄文時代まで多くの人々が生活した跡が少しずつ解明されてきています。

## 最新の出土品から

### 組み合わせモリ〈日置郡市来町川上貝塚〉

川上貝塚は市来貝塚とも呼ばれ、「市来式土器」の標識遺跡です。平成2年度と平成4年度に、国・県の補助を受け「重要遺跡確認調査」として市来町教育委員会が調査を実施しました。これまで、貝塚の範囲や実態がほぼ明らかとなり、多量の土器や石器、装飾品や動物・魚骨などが出土しています。また、九州初のオオヤマネコの骨も出土しています。



本年度の調査で、縄文時代後期の漁撈具「組み合わせモリ」の先端部が出土しました。これは、朝鮮半島南部から西北九州一帯にかけて発見されるもので、「西北九州型漁撈具」と呼ばれる石器です。これまで、朝鮮半島南部、福岡・佐賀・長崎・熊本四県の海岸部の52遺跡から出土し、熊本県牛深市の椎ノ木崎遺跡が南限とされていました。出土した石器は安山岩製で長さ4.4cm、最大幅3.2cmの二等辺三角形状を呈し、長い二辺にはノコギリ状の歯がつけられています。正確には「鋸歯鏃尖頭器」と呼び、「組み合わせモリ」の先端部です。

## 主なできごと

- ◎落成・開所 5月8日(金)
- ◎開所記念講演会(第1回) 7月4日(土)  
参加者125名(定員100名)
- ◎埋蔵文化財行政基礎講座 7月16日(木)  
(第1回) 受講者80名(定員50名)
- ◎古代とのふれあい 7月30日(木)～31日(金)  
参加者112人(定員100名)
- ◎開所記念講演会(第2回) 8月22日(土)  
参加者100名(定員100名)
- ◎埋蔵文化財長期研修講座 受講者7名(大口市、東市来町、宮之城町、蒲生町、栗野町、吉松町、吾平町)
- ◎開所記念講演会(第3回) 9月26日(土)  
参加者168名(定員130名)

- ◎サタデープラン 9月12日(土)  
参加者36名(定員40名)
- ◎埋蔵文化財行政基礎講座(第2回)  
10月15日(木) 受講者66名(定員50)

## これからの予定

- ◎サタデープラン  
学校週5日制に伴う第2土曜日のひと時を古代と対話してみませんか。  
・1月9日(土) 「古代の火おこしにチャレンジ」  
・2月13日(土) 「土器の復元にチャレンジ」  
<各回10時～11時30分、14時～15時30分の2回>

### 【Contents】

Prefectural Excavated Cultural Assets Center opens.

[An Institute that will be open to everyone.]

—The Governor of Kagoshima's opening address —

[Encounter our ancient past and enrich our minds.]

—Celebrating the establishment of the Institute—

The history of the Institute.

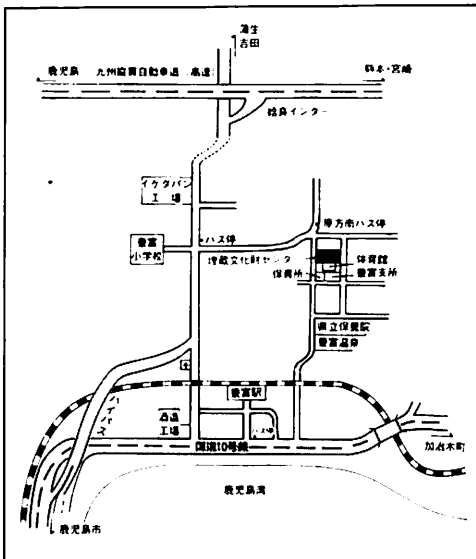
The 1992 program at the Institute included. Special lectures by guest speakers. (Part1)

The site under excavation.—Maehara Site— Artifacts most recently unearthed. (Part1)

—United harpoon—

Highlights from the Institute past.

Schedule for 1993.



### 交通機関

- ①JR九州「重富駅」下車、徒歩20分
- ②鹿児島交通・南国交通・林田バス  
「原方南」下車、徒歩2分  
「重富小前」下車、徒歩5分  
「重富駅前」下車、徒歩20分

### 埋文だより 創刊号

鹿児島県立埋蔵文化財センター

〒899 - 56

鹿児島県始良郡始良町平松6252

TEL 0995 (65) 8787

FAX 0995 (65) 8117